

研究テーマ	見て感じて、自らつくり出す力を育むための鑑賞授業の工夫 —第3学年「お面づくり 表情豊かなお面をつくろう」の実践を通して—
-------	--

八千代町立東中学校 講師 飯塚 浩

I 研究テーマについて

美術科の目標、「美術文化について理解を深め」の中で、「これからの国際社会で活躍する日本人を育成するためには、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め…」とある。また、鑑賞における目標としては、「単に知識や作品の定まった価値を学ぶための学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくり出す学習である。鑑賞学習を推進していく手立ての一つとして、言語活動の充実が図られている。他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えを持つことが大切であり、それらを取り入れながら自分の目と心でしっかりと作品をとらえて見ることにより、自分の中に新しい価値がつくり出され、段階的に指導の充実が図られることを目指している。」と示されている。

鑑賞の授業では、まず、作品や対象のもつよさや美しさを自分なりに感じ、発見したことを「きれい」、「かわいい」、「本物みたい」、「なんかいいね」と言語化し、学級全体で話し合いながら共感し合う場をもつことが大切である。次に、作品や作者についての一般的な解釈や知識を理解し、主観的な価値に知的な理解に基づいた根拠を言語化する。そして、その根拠に基づいて他者と話し合うことで、新しい価値を言語化していく。この、三段階の学びを積み重ねることで、授業の学びあい形成され、今後の表現活動や鑑賞への関心が高まるようになると思われる。

具体的な題材として、「お面づくり」を行うことにした。節分に使われる鬼のお面や、ヒーローのお面など身近なお面から伝統的な能面など日本には身近なものから伝統的なものまで幅広く存在している。お面がもつ不思議な魅力を、素朴なアフリカのお面や華美でクールな西洋の仮面と比較しながら鑑賞し、日本の伝統や日本人独自の美意識を自分の価値意識として高めていくことが大切である。そして、その価値意識に基づいて、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深め、その上で新しい価値や文化を創造しようとする気持ちをもたせたいと考え本研究を設定した。

II 研究の実際

1 題材名 お面づくり～表情豊かなお面を作ろう～

2 目 標

- お面について関心を持ち、創造的活動の原点に触れ、自分にあった主題を工夫し、お面を立体でつくろうとする態度を育てる。(関心・意欲・態度)
- 西洋と日本のお面の発想の違いを知り、喜怒哀楽の表情を自分なりに工夫し、構想することができる。(発想・構想の能力)
- 主題をもとに粘土の素材が持つ、触感、固まり、動きを生かしながら立体で造形する技能を養う。(創造の技能)
- 世界と日本のお面の表現の違いや共通点を知り、それぞれのよさや美しさを味わい、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態（アンケート調査 男子22人 女子14人 計36人 平成29年4月17日実施）

①美術の授業は好きですか。	・好き30名 ・きらい3名 ・どちらでもない 3名
②関心のある題材は何ですか。	・絵画10名 ・ものづくり16名 ・鑑賞6名 その他4名
③お面の鑑賞に関心はありますか。	・関心ある16名 ・関心ない 20名
④鑑賞の授業で知りたいことは何ですか。（複数回答）	・お面の種類 20名 ・お面のつくり方 18名 ・世界と日本のお面の違い 12名 ・その他 5名
⑤意見発表はクラス全体とグループでは、どんな形態がいいですか。	・グループ 32名 ・学級全体 4名

本学級は、男子22人、女子14人、計36人である。三世帯同居の農村が多い地域であり、おとなしくてまじめな生徒が多い。アンケートによると、「美術の授業が好きである」と答えた生徒が9割を超えていることがわかる。一方で、鑑賞の授業への関心は、半数以上の生徒が「関心がない」と答えているのが現状である。そこで、粘土でものづくりという親しみやすい題材と、お面の鑑賞を併せて設定することで鑑賞授業への関心を高めることができるのではないかと考えた。

(2) 題材観

本題材では、お面を制作する際に、作者の思いや心情を投影させ、表情豊かな粘土表現を目指している。平成20年に告示された新学習指導要領においても「我が国の美術文化についての理解を深める」学習が重視され、3年間で系統的に美術文化の学習を充実させることが求められている。そこで、日本の祭りに欠かせない天狗、ひょっとこなど、お面づくりの授業を行うことで、京都・奈良への修学旅行の事前学習にもなり、日本の伝統的文化を見ただけでなく創作しながら学習できる利点も大きい。また、絵画鑑賞に関心の低い生徒でも、祭りは大好きな生徒が多いのでお面鑑賞であるなら授業への関心を高められると思い本題材を設定した。

(3) 指導観

そこで、本題材では、まず、西洋の代表のお面である「カーニバルのお面」と日本を代表する「ひょっとこやおかめ」、「秋田のなまはげ」の民芸品であるお面を鑑賞させる。さらに、世界に誇れる日本の重要文化財である能に使われる能面の鑑賞へと深めていく。そして、実際のお面づくりでは、自分の顔の凹凸を手で実際に触りながら、触感を中心とした制作を通して、粘土素材特有の触感を楽しみながら創作意欲も同時に高めることができると考え、本題材を設定した。

4 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
お面について関心をもち、自分にあった主題を工夫して、お面をつくろうとしている。	西洋と日本のお面の違いを知り、笑いや怒り、悲しみの表情を自分なりに工夫し構想することができる。	主題をもとに粘土の素材が持つ、触感、固まり、動きを自分なりに工夫しながら立体でつくることができる。	世界と日本のお面の表現の違いや共通点を知り、それぞれのよさや美しさを味わい、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めることができる。

5 題材の指導と評価の計画（8時間取り扱い）

時	学習内容	評価の観点				評 価 規 準		方 法
		関	構	技	鑑			
1 2	・学習内容を知る ・頭部のロポーションを知る。	○		◎		・学習計画を知り、お面づくりへの関心をもっている。 ・頭部のプロポーションを理解することができる。	・観察 ・ワークシート ・自己評価カード	
3 (本時)	・日本と外国のお面を鑑賞し、よさや美しさを味わい、違いを話し合い、自分の主題を考えることができる。	○			◎	・日本と外国のお面を鑑賞し、よさや美しさを味わい、違いを話し合い、自分の主題を考えることができる。外国のお面と西洋のお面を鑑賞し、お面づくりへの関心が高まっている。 ・お面のよさや美しさを話し合い、	・観察 ・ワークシート ・自己評価カード	
4	・主題をもとに構想を練り、アイデアスケッチができる。	○	◎	○		・主題をもとに構想を練りアイデアスケッチができる。	・ワークシート ・自己評価カード	
5 ～ 7	主題をもとに「笑い」「怒り」「悲しみ」コースに分かれ、肉付けする。	○	○	◎		主題に近づけるよう、かたまりや動き・つながりを意識した肉付けを行うことができる。	・観察 ・制作中の作品 ・自己評価カード	
8	鑑賞および互評会を行い友人の作品の良さを味わう。	○			◎	友人の作品の良さを見つけ鑑賞カードに感想を記入することができる。	・観察 ・鑑賞ワークシート ・自己評価カード	

6 指導の実際

(1) 目 標

日本と外国のお面を鑑賞し、よさや美しさを味わい、違いを話し合い、自分の主題を考えることができる。

(2) 研究主題との関連

鑑賞を通して、自分が共感したお面と自分の気持ちを観察しながら表情豊かに表現しようとする意欲を高めるための鑑賞の授業として捉えている。

(3) 準備・資料

○教師 ワークシート、鑑賞用プレゼン VTR、実物投影機

○生徒 資料集、自己評価カード

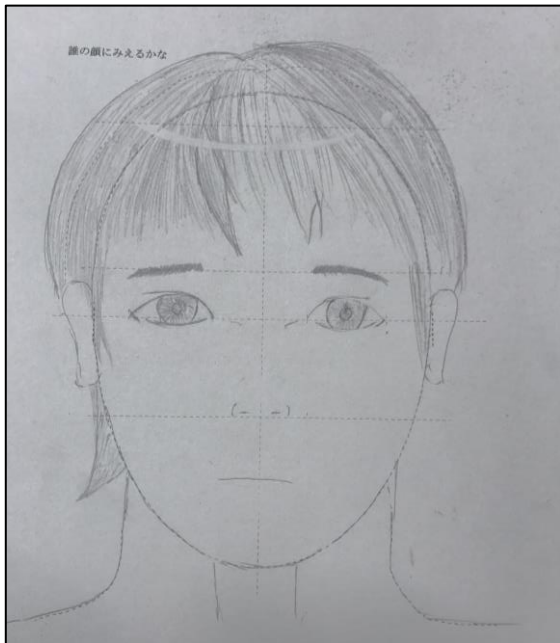
(4) 展 開

学習活動及び内容	形態	指導援助の留意点と評価
1 本時の学習課題をとらえる。	一斉	・昨年の生徒作品を提示し、お面づくりへの関心を高める。

日本と西洋のお面の特徴を話し合い、自分にあった主題を考えよう。		
2 世界と日本のお面のVTRを鑑賞する。 ・アフリカの民族舞踊とお面 ・ベニスのカーニバルに使われるお面 ・つくば市のひょっとこ踊り ・秋田県なまはげ ・能の舞と面打ち師	一斉	・お面がどんな場面で使われているか、日本のお面は世界のお面と比べて特徴にどんな違いがあるか、気付いたことをメモするように伝えておく。 ・お面の表情に着目し、他の視覚的情報に惑わされないように注意させる。 ・能は歌舞伎と並んで無形の世界遺産として日本を代表する芸術文化であることを知らせておく。
3 鑑賞したお面について話し合う。 (1) お面の用途や目的を考え、まとめる。 ・お祭りで使用 ・踊りに使われる ・その他 (2) 外国のお面と日本のお面の表情の違いについて気付いたことを話し合う。 ・無表情 ・表情あり (笑い・怒り・悲しみ・その他)	グループ	・班で話し合い、意見を出し合いながら(1)、(2)についてまとめるよう指示する。 ・(2)について第一印象で、「表情あり」「無表情」かを判断した後、どんな表情かをメモしていくよう助言する。 ・司会者は、事前に決めておき、話し合いマニュアルにしたがって進めるようにする。 ・(2)の表情においては、顔のどんなところを根拠に笑いや怒りを感じるかを話し合うように助言していく。 ・それぞれの国や地域で独自に発達しており、民族性や国民性、宗教の違いなどがお面の形やデザインに大きく影響していることに気付かせたい。
4 グループごとに発表する。 ・ホワイトボードに外国のお面と日本のお面の表情の違いをまとめ、発表する。	一斉	・「外国のお面は無表情なのに、日本のお面は笑ったり、怒ったり感情が豊かだと感じた」という意見が多いときには、発表を途中で止めて、「なぜ、無表情なのか。なぜ、怒る必要があるのか」と補助発問をすることで全体に意見を求め、より深い学びにつながるように配慮する。
5 自己評価カードに記入し、次時は主題を明確にし、表情のアイデアスケッチをすることを確認する。		⑦ 世界や日本のお面の鑑賞後の話し合いを通して日本と外国のお面の違いに気づき、自己の主題を考えている。

	(観察, ワークシート, 自己評価カード) ・それぞれの主題別に挙手をさせ, 自己の主題を確認し, 次時の作業への関心を高めておく。
--	--

◆頭部のプロポーションを知ろう



◆外国と日本のお面の特徴の違いを話し合う

◆世界のお面と日本のお面の特色を話し合い, 自分にあった主題を決定しよう。

VTR 視聴	気がついたこと			
	何に使用 踊り・祭 その他	どんな表情 表情ある 無表情、他	その他 気付いたこと	自分的には 好き? 興味 ある?
1 外国のお面				
① アフリカの部族の踊り	祭り	無表情	ワケアツい お面	△
② イタリアのカーニバル	祭り	無表情	白人色で 少し怖い	△
2 日本のお面				
③ なまはげ	祭り	怖い	なまはげが きたら怖いぞ	X
④ ひょっとこ おかめ	祭り	面白い	やけに 感じ	○
⑤ 能 面	祭り	少し 笑ってる	白い色を している	△
日本のお面と世界のお面を比べて気付いたこと				
世界のお面は派手だけど日本のお面はシンプル (表情豊か) (かたい) 無表情 (おかしな顔)				

◆外国のお面と日本のお面の違いについて話し合う

①アフリカ・ドゴン族 ②イタリアのカーニバル



外国のお面 ↑

③なまはげ ④ひょっとこ



日本のお面 ↑

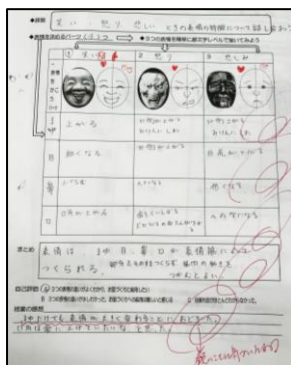
⑤能面



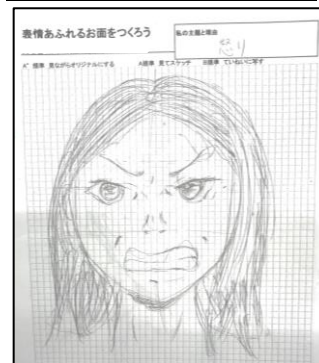
話し合いの様子⇒



◆笑い・怒り・悲しみの表情の特徴を話し合う



◆自分の主題を決める



◆表情による筋肉の動きを意識して肉づけをする



◆着色する



◆完成



Ⅲ 研究成果と課題

1 成果

昨年は、抽象的にデフォルメする仮面や目や口のパーツだけ強調した作品が多くなったが、外国のお面との比較鑑賞や表情づくりを筋肉の動きまで考えて話し合った。そうすることでアイデアスケッチ段階の表情描写や表情に動きのある肉付け作品が数多くみられた。また、肉づけにより表情が出てくると、生徒が自然とお面に向き合うようになり、制作意欲の向上にもつながった。

2 課題

話し合いの場面で、自分から主体的に意見を述べる生徒はまだまだ少ない。模範生徒の意見と同じ内容を繰り返す傾向が強く、生徒の主体的な話し合いとは言えない現状である。

ある日の授業でお面の表情を師範してつけてあげたところ、怒りや笑いの表情が激的に変化し、とても興味を示した生徒がいた。そのことから、視覚を重点にした鑑賞から触覚を重点にした鑑賞を展開すれば生徒の五感が刺激され、活発な話し合い活動になると考え、今後の課題としたい。